令和３年度 教養学部地域社会学科 一般選抜（中期日程）講評

１．出題の意図

課題文は、中澤秀雄「地方と中央　―『均衡ある発展』という建前の崩壊」小熊英二編著『平成史　【完全版】』（河出書房新社、2019 年）の一部である。引用個所では、1960 年代の全国総合開発計画と、それに続く新全国総合開発計画が批判的に分析されている。本論考によると、全国総合開発計画は太平洋ベルト地帯に大規模工業施設を誘致し、そのための社会的負担を「裏日本」をはじめとする地方に分担させる地域分業を前提としており、特定地域に集中投資することを経済発展の動力とする「都市圏立地主義」が実態であった。しかしながら、公共事業による完全雇用を地方に創出することで、全国平等に均衡発展を目指しているかのように偽装していたと筆者は指摘する。

東京一極集中と地方の衰退、地方分権など、地方と中央の関係については様々な議論がなされているが、この問題は居住地によって見え方が大きく変わってくるものでもあり、地域社会学科では、全国各地から集った学生が活発な議論をかわしてくれることを期待している。課題文中では、「空間ケインズ主義」、「都市圏立地政策」といったなじみのない用語も登場するが、その意味をしっかりと理解したうえで、地域開発のあるべき姿を考えるきっかけとしてほしいというのが出題の意図である。

２．評価のポイント

問１

課題文の序盤で述べられている「『空間ケインズ主義』が貫かれているかのような偽装」について問うたものである。課題文の冒頭で、「空間ケインズ主義」は「国内のすべての空間に投資し平等に発展させる政策」、「都市圏立地政策」は「特定のスケールだけに投資し、それを成長のエンジンにしようとする発想」と説明されている。

（１）「空間ケインズ主義」、（２）「都市圏立地政策」がそれぞれどのようなものであるかを簡潔に説明したうえで、日本の国土開発政策が「都市圏立地政策」の側面を強くもちつつも、「空間ケインズ主義」が貫かれているかのように（３）偽装していた、みせかけていた、という３点が書かれていることがポイントとなる。

問２

課題文の中盤に述べられている、（１）1970 年代の土建開発と地方への完全雇用の創出といった施策が、「地域間格差の是正」、「国土の均衡ある発展」という幻想を補完し、（２）「周辺部」が離反していかないように、「中心部」につなぎとめる仕組みとして機能していたことを問うものである。上記の２点について、しっかりまとめられているかがポイントとなる。

問３

巨大ダムや原子力発電所の建設といった外発的な開発を経験した地方では、「待ち」の姿勢が蔓延してしまい、「内発的発展」が阻害されてしまった。そのような結果が生じた原因を筆者は問うているということを押さえたうえで、前段ではこの問いかけに対する筆者の見解を簡潔にまとめることが求められる。そして後段では、今後の日本の地域開発の方向性

について自分の見解を述べることが求められている。

問いかけに対する筆者の考えは、下線部③の直後の段落に記されているので、それをまとめればよい。（１）「地域特性無視の画一的プロジェクト主義」、（２）「税制・補助金・財政投融資などの財政誘導主義」、（３）「ハードウェア・産業基盤施設中心の生産至上主義」を特徴とした全国総合開発計画に問題があったと筆者は考えており、この３点が書かれていることがポイントとなる。加えて、「既存ストックのメンテナンスや保存、さらには人材やソフトウェアへの投資」に重点を移すべきであったという点を含めてもよい。

後段では、筆者の見解を踏まえたうえで、これまでに見聞した事例や、実際に参加したことのある地域振興活動などの成果、課題に触れながら、地域開発のあるべき姿を論じることが求められる。

３．採点講評

問１

１頁目（中略）直後の段落を抜き出し、適切にまとめた解答が多くみられたが、「交通網の整備や箱もの整備といった政府主導の土建開発によって産業界に公的資金を注入し、地方における完全雇用を維持しようとする仕組み」とだけ記述された解答も散見された。このような解答では、「平等のようにみせかけていた」という上記ポイント（３）の記述が欠如するため、減点とした。

問２

下線②の直前の内容がまとめられていることが基本であるが、「交通網や箱ものの整備といった公共事業で完全雇用を提供しようとする仕組み」とだけ記述されている解答が散見された。このような解答では、それが「周辺部」を「中心部」へつなぎとめる仕組みであったという上記ポイント（２）の視点が欠如するため、減点とした。

問１、問２ともに、課題文中から該当個所を見つけその内容をまとめればよいが、自分なりの解釈を加えて自分の言葉で論じた解答も多かった。その場合も、重要なポイントを的確に押さえることが必要で、そうでない場合には減点した。

問３

多くの解答が、筆者の見解として下線部③直後の段落の内容をまとめていた。ただし、「○○主義」という語が繰り返されるためか、記述が混乱している解答も見受けられた。この段落だけではなく、課題文全体の流れを理解していれば、簡潔にして要を得た解答を書けたはずである。

後段については、筆者の見解に賛成の立場をとり、地域特性を活かす必要性や、人材育成、地域住民の主体的参加の重要性を論じた解答が多かった。しかし具体的な事例に触れながら説得力のある議論を展開できていた解答は必ずしも多くはなかった。また中央からの補助金に頼るべきではないという筆者の見解に賛同しているにもかかわらず、地方には限界があるので政府からの補助金が必要だと論じている解答も散見された。筆者の主張に対する意見は様々なものが想定されるが、一貫した立場からの論述が求められる。